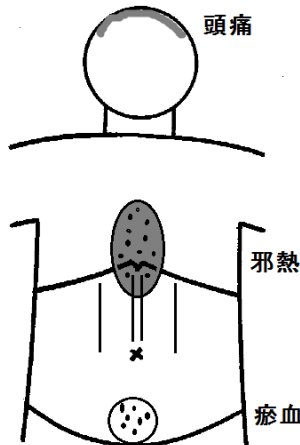


調子が悪くなると来院する 40 代前半の女性看護師。2 週間前は、疲れていて、いつも飲んでいる酒が飲む気がしないと来院していた。今回は背中が昨日は左、今日は右が張り、今朝よりガンガンと頭痛していたが、昼食後に軽くなったと言う。

まず手かざしで胸復を診ると、胸の真ん中からミゾオチ付近に熱を帯びた〈気〉のやや強い滞りがあり、下腹下部に虚の滞りがあり、どちらもポツポツと当たる邪気を感じた。上腹部を按摩すると表面的に突っ張っている。頭部を触ると、〈気〉が盛んに上って来ている。舌を見ると、いつもより全体に赤みを感じる。脈は固まっ



ていて拍動は弱く、その場で拍っている感じで、波動感がない。生理が関係しているかもしれないと思い、聞くと、生理 3 日目だと言う。しかも今回は若い時の様に胸が張ると言う。

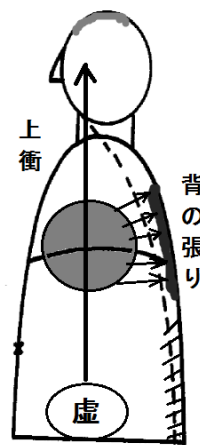
生理によって瘀血が動き出し、その発する邪気が滞り易いミゾオチ付近に溜まり、それが更に、下腹が虚している為に起こる〈気〉の上衝によって頭に行き、頭痛を起こしたと考えられた。また、ミゾオチ付近の邪熱が背面に出て背中の張りを起こしているのだろう。

次に座ってもらう。頭痛の場合、後頭部頭蓋

骨の後縁付近の滞り易い部分に邪気がある場合があるので、そこを診たが、邪気はなかったので、肩・首を軽く鍼して、うつ伏せになってもらった。

ミゾオチ裏面周辺から邪気が盛んで出て、背筋は熱を帯びて張っていた。丁寧に邪熱を鍼で除く。腰から臀部にかけても強く張っていたが、こちらには熱はない。じっくりと鍼をして緩めた。

背の滞りを改善するには、背だけに鍼するよりも、足首に鍼して〈気〉を流すのが効果的である。右足首に軽く鍼を入れると、〈気〉が頭部



から足先へ流れ始めた。背から臀部にかけて按摩しながら様子を見る。背は緩み、状態は大きく改善した。背の状態が改善すれば、胸復の状態も改善する。

仰向けになってもらう。治療によって〈気〉が動き、〈気〉が浮き立ったり、〈気〉が上衝したりするの

で、鍼かざしを胸復全体に行き、浮き立った〈気〉を処理し、足の三里という膝付近のツボに鍼をかざして〈気〉を下げた。下腹部下部にまだ邪気を感じた為、鍼かざしを念入りにすると、お腹がキュルと鳴って動いた。頭を触ると、〈気〉の上衝は収まっていた、脈は緩み、波動を伴ったしっかりとしたものとなった。

病態が改善されても、その効果を患者本人が自覚できる為には通常、30分から1時間必要であるが、後日、確認したところ、帰りの車で既に頭痛や背の張りは無くなったということであった。(2013年9月白露)